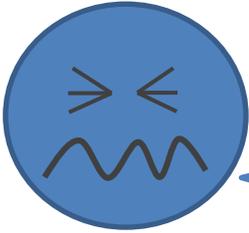


児童の実態

なわ跳びで跳ぶタイミングがつかめず、上手く跳べない。



- ・跳ぶタイミングがつかめない。
- ・高く跳ぶことができない。
- ・なわが引っかかって練習が楽しくできない。

☆本人との対話、本人の思い

- ・高く跳ぶことが苦手。
- ・1回跳べても2回目が跳べない。
- ・なわを回すことはできるが、どこが悪いかわからない。
- ・なわが当たって痛い。



☆手立て・合理的配慮

- ・切れたなわを渡し、なわの回し方と手をたたくことで跳ぶタイミングを教える。
- ・ジャンプ台を使うことで、自然に高く跳ぶことができ、なわが跳べる。
- ・できたことを称賛し、練習の楽しさを感じるさせる。



支援を受けてみて

- ・苦手ななわ跳びがタイミングをつかんで跳べ、楽しくなった。(本人)
- ・進んでなわ跳びの練習を行い、跳べる楽しさを味わっている。(保護者)